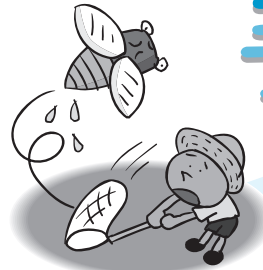




これは、大崎町青少年活動事業実行委員会と大崎町教育委員会の主催により行われたもので、町内の小学生三十人が参加しました。

人や自然とのふれあいを深め、困難に打ち勝つ心や体を養うとともに、連帯感・協調性を培い、思いやりのあるたくましい青少年の育成を図ることを目的に、三泊四日の日程で九州アドベンチャーの旅が実施され、長崎県の国立諫早少年自然の家などを拠点に研修が行われました。

九州サマ―アドベンチャーの旅



期間中は、長崎市内の史跡・遺跡などを各グループに分かれて研修し、その内容を各グループで発表したほか、普賢岳資料館と普賢岳噴火災害跡の見学、深海川の中流からその上流への沢歩き自然体験、九州歴史資料館見学などを行い、子ども達にとって充実した研修になったようです。



喫煙の影響について

保健師だより



大崎町の死因で最も多いのは、『がん』です。その中でも『肺がん』が上位を占めています。(平成十一年、十二年統計)

肺がんや喉頭がんは、『喫煙』と密接な関係があることが証明されています。

たばこの煙には、約四千種類以上の化学物質が含まれていて、そのうち約二百種類が有害物質で、その中に約四十種類の発ガン性物質が含まれているといわれています。

このたばこを若い年齢で吸い始めるほど、肺がんや喉頭がんにかかりやすく、がんの芽が最もでやすいのです。

最近では、未成年者や若い女性の喫煙者が増加している状況にあります。女性の場合、妊娠中に流産・早産しやすくなり、周産期死亡の危険性も高くなるうえ、低体重児(未熟児)

が産まれる率も通常の二倍になっています。

たばこは吸っている本人だけに害があるわけではありません。受動喫煙の害は、喫煙者以上なのです。部屋に立ち込める煙の六十%以上は副流煙であり、この副流煙には有害物質が高濃度に含まれています。喫煙者の妻は、夫がたばこを吸わない場合の人の二倍の割合で肺がんが死亡しているといわれています。

こうしたことから、家庭内に子どもがいた場合、計り知れない悪影響を及ぼすこととなります。

そこで、禁煙の方法として、
① ニコチンガムやニコチンパッチを使う。

② ガム、あめ、禁煙パイプなどで、口淋しさを紛らわせる。

③ 禁煙宣言をし、散歩やスポーツでいろいろな解消する。

などの方法がありますので、あなた自身とあなたの周りの人々のために試みてください。

